平成15年度事務事業評価表

担当	上下水道部	下水整備課	内線等	2242
----	-------	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	雨水管渠築造工事		
根拠法令等	下水道法		A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
快適でやすらぎのあるまちづくり	下水道

②事務事業の内容

対象(受益者)	下水道認可区域内において
手 段	雨水管渠築造工事を行うことにより
想定する成果	浸水被害を解消する

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
管渠工事費	60,471 千円	60,179 千円	17,000 千円
整備面積(累計)	1.0 (788.9) ha	1.3 (790.2) ha	0.1 (790.3) ha
布設延長	460 m	343 m	60 m

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標の説明	整備進捗率 累計整備面積／認可区域面積×100 (1,396ha)	1ha当りの整備費 事業費／整備面積

⑤事業の進捗状況 (下水道特別会計) (千円)

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	56.6
	実績	56.5 %	56.6 %	—
成果指標 ②	計画	—	—	170,000
	実績	60,471	46,292	—
事業費	事業費	60,471	60,179	17,000
	人件費	6,610	6,494	6,682
	(人数)	0.8	0.8	0.8
	合計	67,081	66,673	23,682
財源内訳	国	9,030	23,138	7,500
	県	0	0	0
	市債	46,297	33,337	8,550
	その他			
	一般財源	11,754	10,198	7,632

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	3	永年大雨のたびに浸水被害が出る地域で、工事完了により浸水被害を解消できた。
経済効率性	2	2	コスト縮減及び、工種に捉われず現場に即した経費の選定により工事費の縮減を図った。
事務効率性	2	2	渇水期での施工となるため、年度後半の発注となかったが、回覧・地元及び個別での説明により工事に協力的で、苦情による事務対応がなく事務効率性を図れた
必要性	3	3	市が実施すべき事業であり、早期完了をめざす。
小計	10 /12 満点中	10 /12 満点中	
市民参加度	2	2	地元回覧・説明会を初め、個別での説明を行ったため協力的に工事は完了し、現場での苦情もなかった。
合計	12 /15 満点中	12 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	下水道事業認可区域内において、必要不可欠な事業である。常にコスト縮減意識を持ち、計画的な発注を図り早期完了をめざす。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

設計積算におけるコスト縮減及び、諸経費を工種に捉われることなく、現場に即した経費の選定により工事費の縮減を図った。

⑧今後改善すべき点

現況河川での、雨水管渠築造工事は、渇水期での時期的制約を受け工事発注が年度後半になるが、計画的な早期発注、早期完了をめざす。

⑨平成17年度予算に反映する項目

浸水被害を被っている未整備箇所の早期整備完了をめざす。

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成15年度事務事業評価表

担当	上下水道部	下水整備課	内線等	2247
事業コード		事務事業名	マンホールポンプ維持管理事業	
根拠法令等	下水道法		A法令	B条例 C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
快適でやすらぎのあるまちづくり	下水道

②事務事業の内容

対象（受益者）	下水道事業認可区域内の低地帯において
手 段	マンホールポンプの適切な維持管理を行うことにより
想定する成果	低地帯における下水を円滑に流すことで、受益者の生活環境を維持する。

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
保守点検・清掃等委託業務費	3,308 千円	3,750 千円	4,000 千円
委託業務箇所	10 箇所	11 箇所	11 箇所
電気・通信費	1,559 千円	1,706 千円	1,760 千円

④成果指標

成果指標名	①	②
	維持管理指数	1 箇所当りの維持管理費
成果指標の説明	異常警報発生件数 12 ヶ月	委託業務費＋電気・通信費 委託業務箇所数

⑤事業の進捗状況 （ 下水道事業特別会計 ） （千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	0.3 件/月
	実績	0.3 件/月	0.4 件/月	—
成果指標 ②	計画	—	—	524 千円/箇所
	実績	487 千円/箇所	496 千円/箇所	—
事業費	事業費	3,308	3,750	4,000
	人件費	1,653	1,623	1,671
	(人数)	0.2	0.2	0.2
	合計	4,961	5,373	5,671
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	4,961	5,373	5,671

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	3	異常警報の連絡はあったが、受益者に不安を与えることなく、十分に維持管理できた。
経済効率性	2	2	適切な金額で実施できた、今後は更なるコストの削減につとめる。
事務効率性	2	2	投入された人員以上の成果をあげた、又、受益者にも維持管理の必要性をPRできた。
必要性	3	3	事業者が実施すべき事業であり、適切な維持管理をする。
小計	10 /12 満点中	10 /12 満点中	
市民参加度	2	2	異常警報の連絡・汚水の水質管理をすることでポンプの負荷を増やさないよう協力を願う。
合計	12 /15 満点中	12 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	下水道整備区域内には、低地帯や障害物等でマンホールポンプの必要な場所があるので、事業者が、継続して実施する事業である。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

マンホールポンプ内の水位感知装置附近の配線内容を見直して、機器がスムーズに作動するよう改善し、誤作動を防ぎ費用の削減に努めた。

⑧今後改善すべき点

受益者に汚水の水質管理の必要性をPRして、マンホールポンプの負荷を軽減し、維持管理がスムーズにできるようにする。
水位感知装置を物理式から電波式に見直し、浮遊物の付着等による誤作動を防止する。

⑨平成17年度予算に反映する項目

上記を審査して、予算見積りに反映したい。

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成15年度事務事業評価表

担当	上下水道部	下水整備課	内線等
事業コード		事務事業名	汚水取付管布設事業
根拠法令等	下水道法		(A)法令 B 条例 C 規則 D その他 E なし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
快適でやすらぎのあるまちづくり	下水道

②事務事業の内容

対象(受益者)	公共ます設置申請者に
手 段	汚水取付管を布設することによって
想定する成果	下水道を利用できる環境を整備するとともに、福祉の増進、環境衛生の向上に寄与する

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
事業費	12,386 千円	10,529 千円	13,400 千円
施工箇所数	112 箇所	94 箇所	112 箇所

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	下水道接続率(戸数)	施工1件当たり経費
成果指標の説明	$\text{処理区域内水洗化戸数} \div \text{処理区域内戸数} \times 100$	$\text{事業費} \div \text{施工箇所数}$

⑤事業の進捗状況 (下水道事業特別会計) (千円)

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	87.6%
	実績	86.7%	87.1%	—
成果指標 ②	計画	—	—	120 千円/箇所
	実績	111 千円/箇所	112 千円/箇所	—
事業費	事業費	12,386	10,529	13,400
	人件費	3,305	3,247	3,341
	(人数)	0.4	0.4	0.4
	合計	15,691	13,776	16,741
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	15,691	13,776	16,741

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	3	利用者の申請により行う事業であり、予定数の把握は困難であるが、ほぼ当初予定した箇所数の施工ができた。
経済効率性	2	2	年度当初に、地区ごとの汚水取付管施工業者を決めることによって、事業費の節減を図った。
事務効率性	2	2	年度当初に、地区ごとの汚水取付管施工業者を決めることによって、事務効率の向上を図った。
必要性	3	3	法律上、処理開始区域においては管理者が行なわなければならない事業である。
小計	10 / 12 満点中	10 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	大塚地区において地元説明会を開催し、取付管に関する説明を行うとともに、意見交換をおこなった。
合計	12 / 15 満点中	12 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	更なる経済効率、事務効率の向上を図る必要があるが、下水道管理者として継続して行わなければならない事業である。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

- ・年度当初に、地区ごとの汚水取付管施工業者を決めることによって、事業費の節減と事務効率の向上を図るとともに、取付管設置の要望に対して迅速に対応できるようにした。
- ・公共樹の設置位置を事前に専門業者（指定排水設備業者）に決定してもらうことによって、円滑な施工と、施工後のトラブルを減少させた。
- ・規定の改正に伴い、最小管径の変更（150mm→100mm）を行い事業費を節減した。

⑧今後改善すべき点

- ・汚水本管の施工前の地元説明、事前調査を今以上に行い、汚水本管と同時施工の取付管数を増やし、経費の節減と下水道利用の促進を図る必要がある。

⑨平成17年度予算に反映する項目

- ・処理区域内の水洗化を促進するため、一層の予算措置が必要。

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載